

特別企画展

日本画の

岸田劉生《四時競甘》大正15年（1926）



おうち鑑賞



初代宮川香山
《倣洋紅意窠窠花瓶》
明治時代(20世紀)

「床の間芸術」を考える

棲み家

The "Habitats" of
Modern Japanese
Paintings

11.2 thu 2023. 12.17 sun

◎開館時間:11:00~18:00*金曜日は19:00まで開館*入館は閉館の30分前まで

◎休館日:月曜日

◎主催:公益財団法人泉屋博古館、日本経済新聞社

泉屋博古館東京

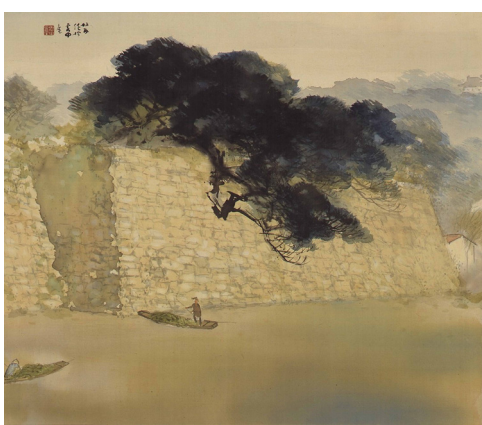
SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM TOKYO



泉屋博古館東京
SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM TOKYO

明

治時代における西洋文化の到来は、絵画を鑑賞する場に地殻変動をもたらしました。特に西洋に倣った展覧会制度の導入は、座敷や床の間を「棲み家」とした日本絵画を展覧会場へと住み替えさせました。その結果、巨大で濃彩の作品が増えるなど、日本絵画は新しい「家」にふさわしい表現へと大きくシフトしていきます。このような時代のなかで集められた泉屋の日本画は、むしろ邸宅を飾るために描かれたもので、来客を迎えるための屏風や床映えする掛軸など、展覧会を舞台とする「展覧会芸術」とは逆行する「柔和な」性質と「吉祥的」内容を備えています。本展では、かつて住友の邸宅を飾った日本画とその取り合わせを展覧し、床の間や座敷を飾る日本画の魅力や館蔵品から紹介します。また現代の作家が「床の間芸術」をテーマに描いた作品もあわせて展示し、いまの「床の間芸術」とは何かを考えます。



- ① 西川一草亭《春芳秋卉図》昭和8年(1933)
 - ② 狩野芳崖《寿老人図》明治10年代前半(1880年代前半)頃
 - ③ 木島櫻谷《震威八荒図》大正5年(1916)
 - ④ 竹内栖鳳《禁城松翠》昭和3年(1928)
 - ⑤ 橋本雅邦《春秋山水図》(左隻)明治37年(1904)頃
 - ⑥ 小林明日香《partition》令和5年(2023)作家蔵
- *①～⑤はすべて当館所蔵。

入館料: 一般1,000円(800円)、
高大生600円(500円)、中学生以下無料

*20名様以上の団体は()内の割引料金
*障がい者手帳等ご提示のかたはご本人および
同伴者1名まで無料

現代の作家が考える
「床の間芸術」

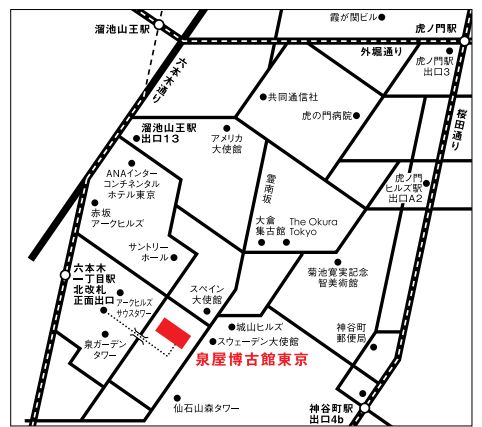


T O H O A

【ラーニング・プログラム】

- I** <アートwith> レクチャー
「表装と文化財―「選定保存技術」入門」
(要予約・要観覧券・要参加費)
11月10日(金)17:30~18:30
【講師】中野慎之氏
(文化庁文化財第一課絵画部門 文化財調査官)
【聴講料】500円
- II** 記念講演会
「家出した日本画に、失墜した^{トコ}床―
その封建的性格から不要論が聞こえ出すまで」
(要予約・要観覧券)
11月18日(土)14:00~15:30
【講師】本橋 仁氏(金沢21世紀美術館レジストラ)
- III** 記念講演会
「江戸時代住友家の「道具」―床の間の飾り物」
(要予約・要観覧券)
12月2日(土)14:00~15:00
【講師】海原 亮氏(住友史料館首席研究員)
- IV** 座談会
「床の間芸術を考える」(要予約・要観覧券)
12月10日(日)14:00~15:30
【登壇者】小林明日香氏、澁澤星氏、
水津達大氏、菅原道朝氏、長澤耕平氏、
松平莉奈氏(以上、出品作家)、
椎野晃史(当館主任学芸員)
- V** スライドトーク(要予約・要観覧券)
11月25日(土)、12月9日(土) 各14:00~15:00
【講師】椎野晃史(当館主任学芸員)
※当日11時より整理券配布
(定員になり次第、締め切らせていただきます)。

※各プログラムの詳細、お申込みについては当館ウェブサイトをご覧ください。※予約制のイベントは、10月26日(木)正午よりホームページにて受付開始予定(先着順)。



泉屋博古館東京 SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM TOKYO

〒106-0032 東京都港区六本木1-5-1 TEL.050-5541-8600(ハローダイヤル) <https://sen-oku.or.jp/tokyo/>
 [アクセス案内] ●東京メトロ・南北線「六本木一丁目」駅下車 北改札正面出口より屋外エスカレーターで3分
 ●日比谷線「神谷町」駅下車・4b出口より徒歩10分 ●銀座線「溜池山王」駅下車・13番出口より徒歩10分
 休館日・開館時間および展示内容を変更する場合がございます。当館のホームページ、SNS等で最新の情報をご確認ください。